

二〇一七年五月二〇日(明石吟行参加者一七名)

三尺寝して昼糶を待つ漢	せいじ
岸壁の藤壺洗ふ青葉潮	せいじ
高速艇夏潮蹴つて速度上ぐ	せいじ
買い手らの目は一点に糶涼し	せいじ
ジェットスキー卯浪にジャンプまたジャンプ	やよい
白シャツにガンバレ東北糶の衆	やよい
薫風や明石大門は船銀座	やよい
漁網編む節くれの手や炎天下	やよい
しめられて宙睨みをる糶りの鯽	明日香
じゃんけんで糶落とさるる小鯹かな	明日香
掛け声の呪文のごとし糶涼し	明日香
海と空境界不明黄砂降る	こすもす
釣り人に寄り添ひてまつ白日傘	こすもす
ピカピカの鯹やフライにせんと買ふ	こすもす
浜日永漁網修理に余念なし	はく子
国生みの島泰然と青葉潮	はく子
浜暑し背より高き防波堤	はく子

漁網繕ふ二の腕太き日焼かな	たか子
国生みの島も黄砂に覆はるる	たか子
締められて真鳥賊のきゆうと声洩らす	なつき
夏燕マストひしめく船溜まり	なつき
白南風に吃水深く帰漁船	菜々
豊漁かと問へば首振り汗に笑む	菜々
大穴子一発で糶り落とさるる	せつ子
潮の色こぼして鯹の糶られけり	宏虎
栈橋をきゆきゆと鳴かせる卯浪かな	ぼんこ
日傘してテトラポットに推敲す	満天
トロ箱に吸ひ付く蛸をわしづかみ	みきえ
トロ箱の蓋押し上ぐる蛸の足	わかば

二〇一七年五月二〇日(明石吟行参加者一七名)

吟行句会みのる選